

毒女の病

—— レビー小体型認知症 ——

一人の医師と、認知症の日々を生きる妻との
10年間に及ぶ“いのち”を巡る物語。

Life is like a Dream, isn't it?

「生きなきゃ…
ふたりでよう頑張ったと思う。」
「うん、生きなきゃ。」

〈ヒューマンドキュメンタリー映画〉

伊勢 真一 演出作品

製作/いせフィルム <http://www.isefilm.com/>



2014年/カラー/1時間27分



ありがとう

ライフイズライクアドリーム

「まるで夢のようだね…」

認知症の日々を生きる妻に、夫が語りかける。二人はうなずき合う。この映画は、認知症のドキュメンタリーというよりも、病を経て絆を深める、ある夫婦の愛の物語である。

2011年3月11日。東日本大震災のその日、私はひとりの友人の話聞くために、高知県南国市にいた。友人の名は石本浩市(62才)、ふるさとのその地で小児科を開業する医師である。十数年前、小児がんの子どもたちのキャンプで出逢い、10年がかりで『風のかたち』という映画を製作した仲間だ。その日、石本さんが語ったのは、小児がんの話ではなかった。——レビー小体型認知症。それが、彼の妻の病名だった。

妻・石本弥生さんは、石本さんとは幼なじみ。50代から若年性の認知症となり、10年間、石本夫妻は病との闘いに明け暮れて来た。小児がん治療と地域医療の取り組み、妻・弥生さんの認知症との格闘、決してキレイゴトでは片付けられな

い日々…。石本さんは、医師ならではの観察眼で、弥生さんの発症以来の日常を、まるでカルテを書くように、こと細かに記録していた。

認知症が進行し、今では身の回りのことがほとんど何も出来なくなった弥生さん…。その弥生さんに深い愛情を寄せケアする石本さん、家族、親戚、地域の人々。映画「妻の病—レビー小体型認知症—」は、四国・南国市の豊かな自然に育まれ、支えあうように生きて来た一人の医師と、認知症の日々を生きる妻との、10年間に及ぶ「いのち」を巡る物語である。

「生きなきゃ… ふたりで よう頑張ったと思う。」
「うん、生きなきゃ。」

(演出・伊勢真一)

伊勢 真一 (いせしんいち)

ドキュメンタリー映像作家。1949年東京都生まれ。「奈緒ちゃん」「えんとこ」をはじめ、数多くのヒューマンドキュメンタリーを製作。近年は若手の作品プロデュースも積極的に手がけている。「風のかたち」文化庁映画賞・カトリック映画賞受賞、「大丈夫」キネマ旬報文化映画第1位、「傍(かたわら)」キネマ旬報文化映画第6位。2012年日本映画ペンクラブ功労賞、2013年度シネマ倶楽部賞受賞。

石本 浩市 (いしもと こういち) 小児科医

1951年高知県南国市生まれ。順天堂大学医学部卒業、小児科医となる。小児がん医療に取り組み、最前線で活躍。2001年に故郷・南国市へ戻り「あけぼの小児クリニック」を開業。地域医療に取り組み、10年間に及ぶ妻・弥生さんの病との日々を生きてきた。

石本 弥生 (いしもと やよい) 石本さんの妻

石本浩市さんとは幼なじみ。2004年に統合失調症と診断される。その3年後、若年性のレビー小体型認知症であることが判明、現在に至る。

出演 —— 石本浩市 石本弥生 石川真理
題字 —— 梶谷亮太
撮影 —— 石倉隆二
音響 —— 米山靖
録音 —— 渡辺大彦
編集技術 —— 尾尻弘一
バンドネオン —— 大久保かおり
コントラバス —— カイドーユタカ
音楽協力 —— 横内丙午
宣伝デザイン —— 森岡寛貴 (ジオングラフィック)
制作・上映デスク —— 遠藤郁美
鷲見真弓
増馬則子
製作協力 —— ヒボコミュニケーションズ
一陽社
ハチプロダクション
企画・製作 —— いせフィルム
演出 —— 伊勢真一

助成：文化庁 文化庁文化芸術振興費補助金

——愛する人が認知症になったとき、一体何が大切なのか。

誰の上にも起きる可能性がある認知症という病。

愛する人が認知症になったとき、

あるいは自分が認知症になったとき、一体何が大切なのか…。

この映画は、一人ひとりに深い問いを投げかけています。



Life is like a Dream, isn't it?

妻の病

——レビー小体型認知症——

【レビー小体型認知症】

アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症とともに、「三大認知症」といわれている。パーキンソン症状と幻視・幻聴体験、そして認知症独特の記憶障害がみられる疾患。「レビー小体」とよばれる異常物質が脳組織に沈着する。症状には波があり、鬱(うつ)症状もみられるため、同居する家族の精神的負担も大きい。

お問合せ いせフィルム www.isefilm.com

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-3-7 青山N-ブリックビル3階
TEL:03-3406-9455 FAX:03-3406-9460 E-mail:ise-film@rio.odn.ne.jp

映画「妻の病—レビー小体型認知症—」上映

前売り 1,300円 当日 一般1,800円 大・高1,500円
シニア・中・小1,000円

リピーター割引：当日及び会期中この上映のチケット半券持参で1,000円

同時上映 ※各日11:40～「ゆめのほitori—認知症グループホーム 福寿荘—」(伊勢真一監督作品)

2015/11/21(土)
～2015/12/4(金)
各日10:00～1回上映

※「ゆめのほitori」上映後、下記日程で伊勢真一監督とのゲストトーク、監督の舞台挨拶あり。

11/21(土) 武田純子(「ゆめのほitori」出演者・福寿荘代表)
11/22(日) 石本浩市(「妻の病」主人公・小児科医)
11/23(月・祝) 伊勢真一(「妻の病」「ゆめのほitori」監督)
11/29(日) 土井敏邦(映画「記憶」と生きる」監督)

新宿駅東南口階段下
甲州街道沿道コモショップ左丸
新宿 K's cinema
03(3352)2471
www.ks-cinema.com
各回入替・整理券制

